

(様式3)

【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	飯南町立来島小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	国語科 総合的な 学習の時間	和の文化を受けつぐ	地域の方(茶道, 詩吟, 箏の講師) 来島交流センター 志々公民館
ねらい		和の文化について, 必要な情報を収集・整理してまとめ, パンフレットや劇という形にして発信する。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語科「和の文化を受けつぐ」の学習において, 和の文化(茶道・詩吟・箏)について紹介するパンフレットを作るという学習課題を設定した。また, 教材文の筆者の「和の文化を楽しむ我々も受けついでいる一員」という考えに共感し, 一人でも多くの人に和の文化について知り, 親しんでもらおうと, 学習発表会において発信することにした。 必要な情報を収集・整理するために, 来島交流センターや志々公民館の協力のもと, それぞれの和の文化について地域の方を講師に体験をする機会を設けた。 体験活動では, それぞれの和の文化の歴史や他の文化との関わり等について話を聞いた。箏と詩吟については学習発表会での実演ができるよう, それぞれ2回ずつ実施した。 学習したことをもとに, パンフレットを作成した。また, 学習発表会では古典落語の演目をベースにした劇の中で, 茶道・詩吟・箏について説明, 実演をした。 <div data-bbox="1034 770 1426 1061" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">(箏の体験活動)</p>			
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために, どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り, 貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流センターで教室を開かれている方や町の文化祭等で実演をされている方を講師に体験活動をすることで, ふるさとへの貢献の仕方について考えることができたようにした。 パンフレットづくりや学習発表会を通して発信することで, 自分たちもふるさとに貢献していると実感できるようにした。 <p>(学力育成の視点から)</p> <p>(1) 魅力ある直接体験の場を設定し, 学ぶ意欲の向上を目指す。 日頃, 接点のない和の文化(茶道・詩吟・箏)について, 本やインターネット等で調べるだけでなく, 講師の方から直接教わり体験することで, 知りたい, もっとできるようになりたいという思いを高め, 学ぶ意欲の向上につなげる。</p> <p>(2) パンフレットや劇という形での和の文化の発信を通して, 思考力や表現力を高める。 講師の方が和の文化について説明したり資料を提示したりする様子から, 相手に興味をもってもらうためにはどのような観点でまとめるとよいか, 伝わりやすくするためにはどのように表現するとよいか考える力を高める。</p> <p>(3) 和の文化についての体験活動を通して, 情報収集の力を高める。 講師の方の話を聞いたり質問したりすることで, 和の文化についての発信に必要な情報を集める力を高める。</p>			

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので, 写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・初めは、ふるさとへの貢献の仕方という、地域の産業を受けつぐというイメージが強かった。しかし、講師の方の日頃の活動の様子について話を聞く中で、教室を開いたり、町の文化祭で実演したりするなど、地域の人が集まる場をつくることも、ふるさとへの貢献の1つの形であると捉えることができた。



（学習発表会で茶会の実演をする様子）

（学力育成の視点から）

- （1）実際に体験することで、調べ学習の時には出てこなかった気付きも生まれた。詩吟と箏については、体験の回数をそれぞれ2回ずつとしたので、より上達したところを講師の方に見てもらおうと、自主練習に励む姿が見られた。
- （2）パンフレットや劇を見る受け手の立場になって、講師の方が和の文化についてどんな観点を挙げて説明していたか、どんな資料を用いていたかふり返り、より良い発信ができるように考える姿が見られた。
- （3）事前の調べ学習を通して知りたいことがはっきりしていたので、目的意識をもって話を聞いたり質問したりすることができた。

4 課題や今後の展望

今回の学習は、国語科との関連というところから始まった。体験活動の中で講師の方から、「〇〇（和の文化）に取り組む人がどんどん減ってきているから、もっと増えてほしい。」という声が聞かれた。学級で地域課題について考えた際、産業のことを思い浮かべていた児童たちにとっては、視野が広がる活動になったと感じる。これまで学校で活動するだけで完結していた学習の中には、地域とのつながりのきっかけになるものがまだまだたくさんあるかもしれない。地域のひと・もの・ことを視点に再度各教科の年間指導計画を見直すと同時に、教師自身が広い視野をもって日頃の教育活動にあたることで、児童のふるさとへの貢献意欲等を高める場を積極的につくりたい。

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

（このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。）